

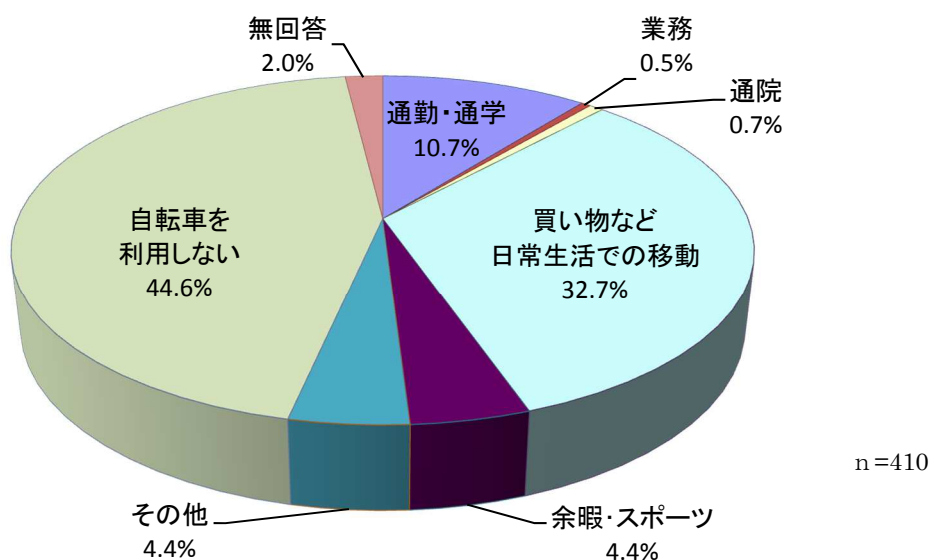
## 6. 自転車の利用促進について

### (1) 自転車の利用目的

◇ 「買い物など日常生活での移動」が3割超え、「通勤・通学」が約1割

問16	自転車を利用する主な目的は何ですか。	(○は1つ)
		n=410
1	通勤・通学	10.7%
2	業務	0.5%
3	通院	0.7%
4	買い物など日常生活での移動	32.7%
5	余暇・スポーツ	4.4%
6	その他	4.4%
7	自転車を利用しない	44.6%
	(無回答)	2.0%

<図IV-6-1>全体



自転車の利用目的については、「買い物など日常生活での移動」が32.7%で最も多く、次いで「通勤・通学」が10.7%となっている。一方、「自転車を利用しない」は44.6%である。

(図IV-6-1)

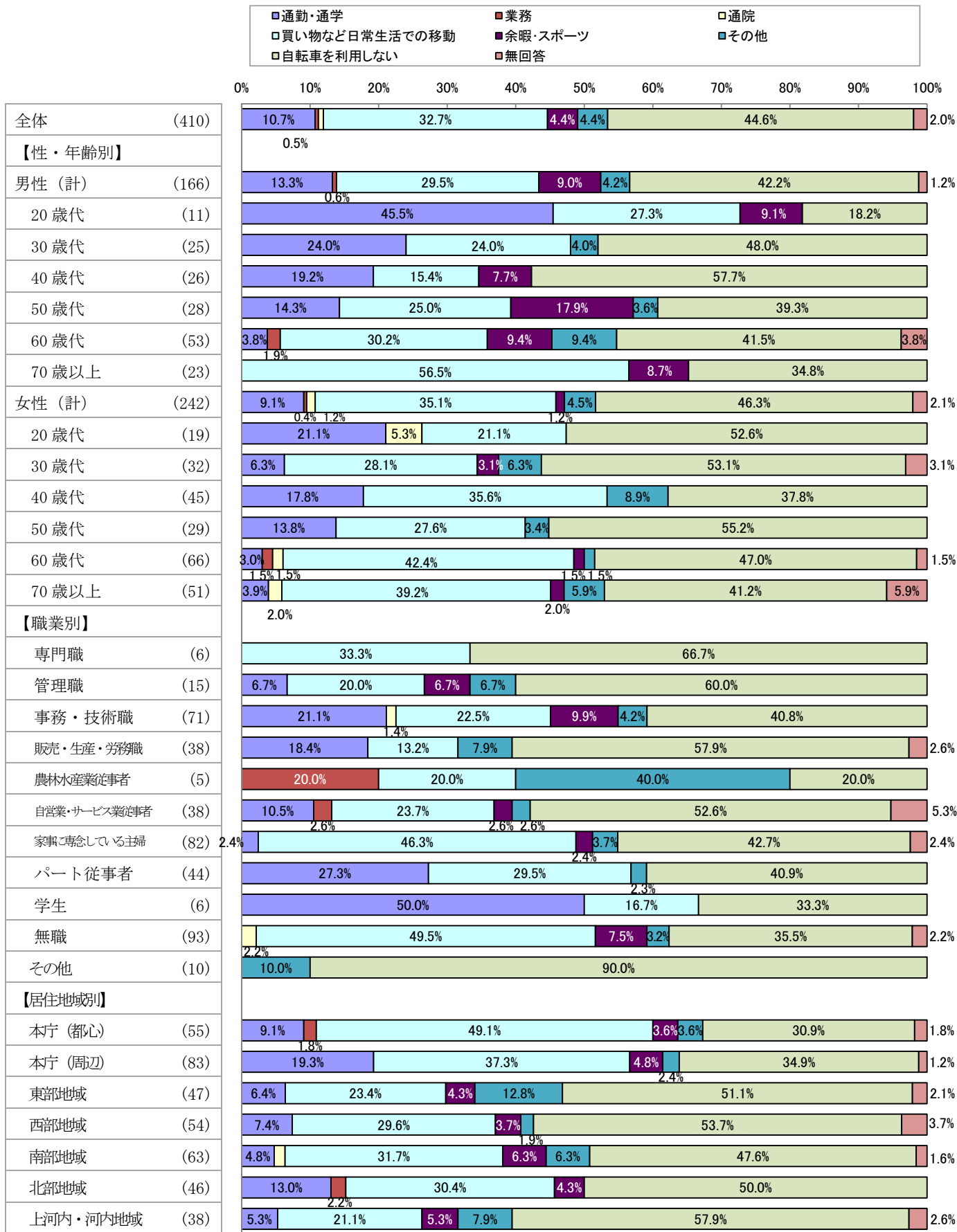
性・年齢別にみると、「買い物など日常生活での移動」は<男性/70歳以上>の利用が最も多く56.5%であった。また、「通勤・通学」は、男性と女性共に<20歳代>が最も多かった。(図IV-6-2)

職業別にみると、「買い物など日常生活での移動」は、<無職>が49.5%で最も多く、次いで<家事に専念している主婦>が46.3%となっている。「通勤・通学」は、<学生>が50.0%と最も多かった。

(図IV-6-2)

居住地域別でみると、「買い物など日常生活での移動」は、<本庁(都心)>が49.1%であり、「通勤・通学」は<本庁(周辺)>が19.3%と最も多かった。(図IV-6-2)

< 図IV-6-2 > 性・年齢別/職業別/居住地域別

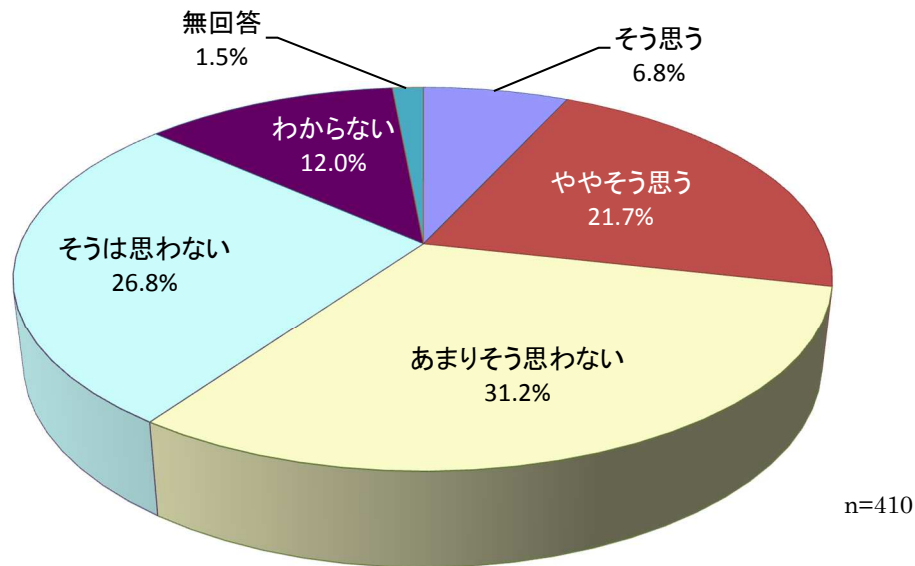


(2) 宇都宮市は自転車を使用しやすい街か

◇ 【使いやすい(計)】が約3割

問17	宇都宮市は自転車を使いやすい街だと思いますか。	(○は1つ)
		n=410
1	そう思う	6.8%
2	ややそう思う	21.7%
3	あまりそう思わない	31.2%
4	そうは思わない	26.8%
5	わからない	12.0%
	(無回答)	1.5%

<図IV-6-3>全体



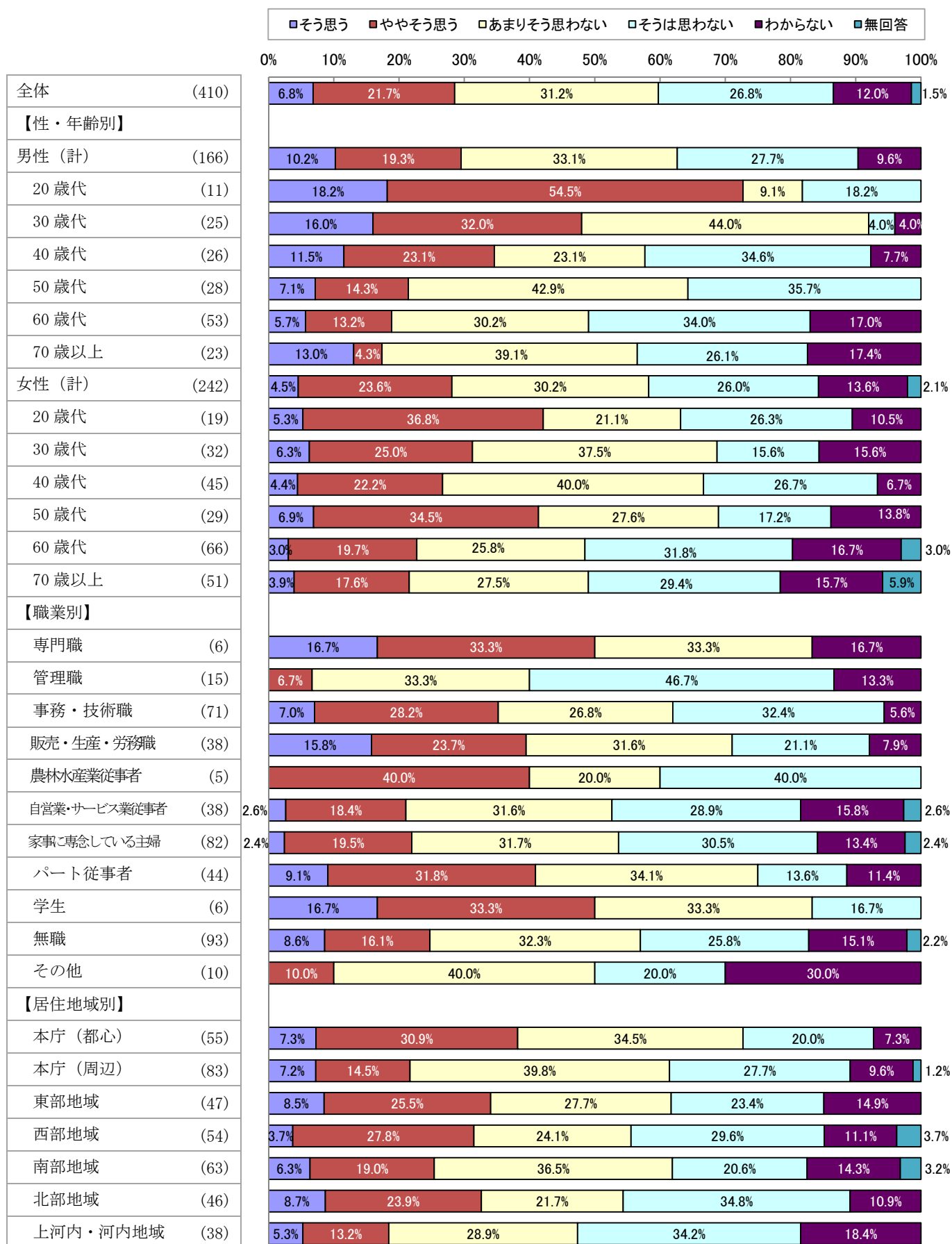
宇都宮市は自転車を使用しやすい街かについては、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【使いやすい(計)】は28.5%となっている。一方、「あまりそう思わない」と「そうは思わない」の合計は58.0%となっている。(図IV-6-3)

性・年齢別にみると、男性、女性共に若年層の方が使いやすいと感じており、特に<男性/20歳代>については【使いやすい(計)】が72.7%、一方、「あまりそう思わない」と「そうは思わない」の合計について、男性の50歳代、60歳代、70歳代以上と女性の40歳代が60.0%を超えている。(図IV-6-3)

職業別にみると、<専門職>と<学生>は共に【使いやすい(計)】が50.0%となっており、一方、「あまりそう思わない」と「そうは思わない」の合計について、<管理職>は80.0%となっている。(図IV-6-4)

居住地域別にみると、<本庁(都心)>、<東部地域>、<西部地域>、<北部地域>については【使いやすい(計)】が30.0%を超えている。一方、<本庁(周辺)>、<南部地域>は20%台で、<上河内・河内地域>は20.0%を下回っている。(図IV-6-4)

< 図IV-6-4 > 性・年齢別/職業別/居住地域別

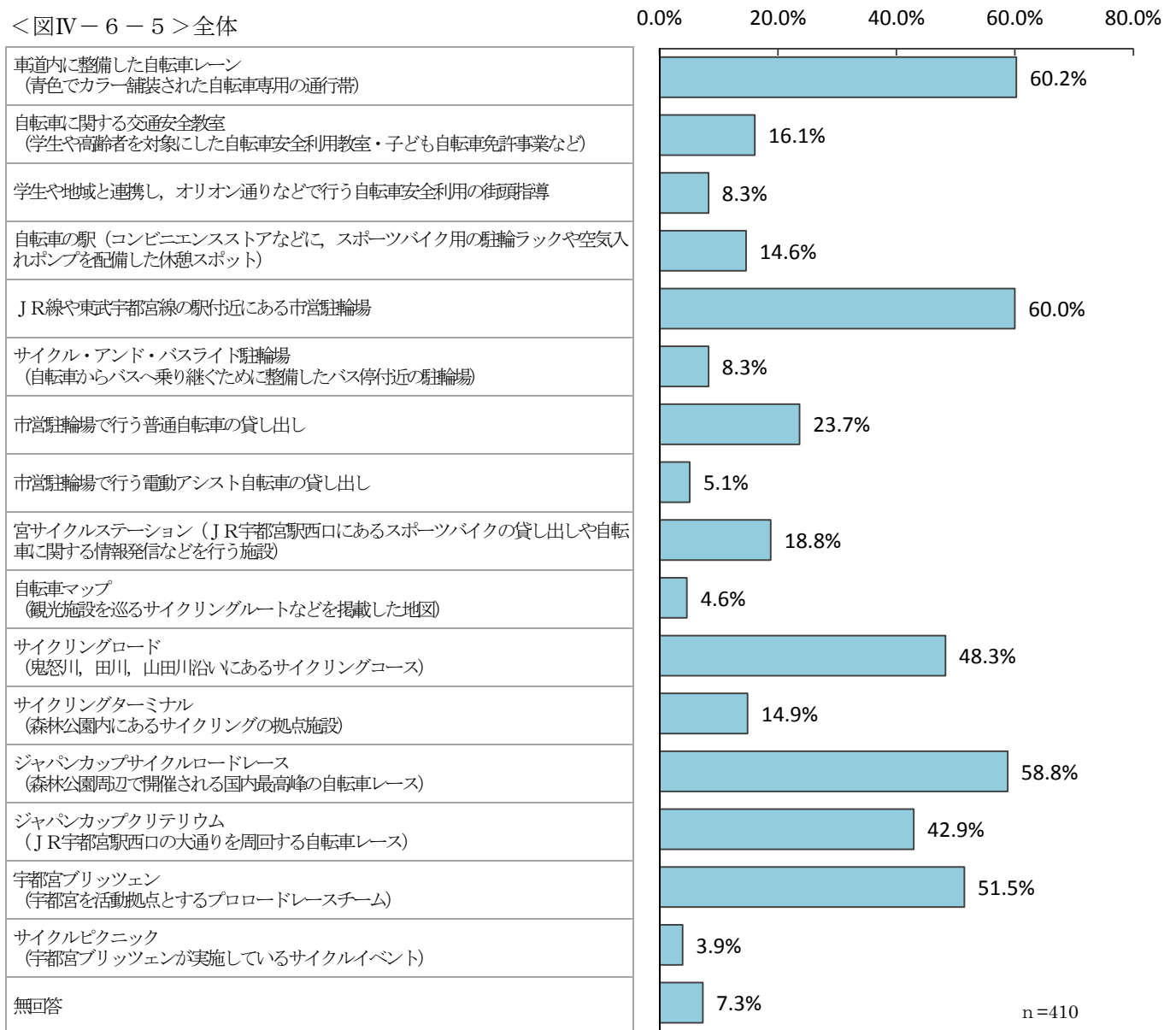


(3) 宇都宮市の自転車施策認知について

◇ 「車道内に整備した自動車レーン」が約6割

問18	本市の自転車施策などについて、知っているものは何ですか。(〇はいくつでも)	n=410
1	車道内に整備した自転車レーン (青色でカラー舗装された自転車専用の通行帯)	60.2%
2	自転車に関する交通安全教室 (学生や高齢者を対象にした自転車安全利用教室・子ども自転車免許事業など)	16.1%
3	学生や地域と連携し、オリオン通りなどで行う自転車安全利用の街頭指導	8.3%
4	自転車の駅(コンビニエンスストアなどに、スポーツバイク用の駐輪ラックや 空気入れポンプを配備した休憩スポット)	14.6%
5	JR線や東武宇都宮線の駅付近にある市営駐輪場	60.0%
6	サイクル・アンド・バスライド駐輪場 (自転車からバスへ乗り継ぐために整備したバス停付近の駐輪場)	8.3%
7	市営駐輪場で行う普通自転車の貸し出し	23.7%
8	市営駐輪場で行う電動アシスト自転車の貸し出し	5.1%
9	宮サイクルステーション(JR宇都宮駅西口にあるスポーツバイクの貸し出し や自転車に関する情報発信などを行う施設)	18.8%
10	自転車マップ(観光施設を巡るサイクリングルートなどを掲載した地図)	4.6%
11	サイクリングロード(鬼怒川, 田川, 山田川沿いにあるサイクリングコース)	48.3%
12	サイクリングターミナル(森林公園内にあるサイクリングの拠点施設)	14.9%
13	ジャパンカップサイクルロードレース (森林公園周辺で開催される国内最高峰の自転車レース)	58.8%
14	ジャパンカップクリテリウム (JR宇都宮駅西口の大通りを周回する自転車レース)	42.9%
15	宇都宮ブリッツェン(宇都宮を活動拠点とするプロロードレースチーム)	51.5%
16	サイクルピクニック(宇都宮ブリッツェンが実施しているサイクルイベント)	3.9%
	(無回答)	7.3%

<図IV-6-5>全体



自転車施策認知については、「車道内に整備した自動車レーン」が60.2%と最も多く、次いで「JR線や東武宇都宮線の駅付近にある市営駐輪場」が60.0%、「ジャパンカップサイクルロードレース」が58.8%と続いている。(図IV-6-5)

性・年齢別にみると、「車道内に整備した自転車レーン」は男性の<20歳代>、<30歳代>が80.0%を超えている。「JR線や東武宇都宮線の駅付近にある市営駐輪場」は、女性の<30歳代>が75.0%と最も多いが、各年代で大きな差は見られない。「ジャパンカップサイクルロードレース」については、男性の<40歳代><50歳代><60歳代>で70.0%を超えている。一方で男性と女性共に<20歳代>が最も少なかった。(図IV-6-6)

職業別にみると、「車道内に整備した自転車レーン」は<専門職>と<学生>が80.0%を超えており、「JR線や東武宇都宮線の駅付近にある市営駐輪場」は、<専門職>と<学生>、<農林水産事業者>が80.0%を超えている。「ジャパンカップサイクルロードレース」は<管理職>の86.7%が最も多く、一方、<学生>が16.7%と最も少なかった。(図IV-6-6)

居住地域別にみると、自転車施策認知度上位3位である「車道内に整備した自転車レーン」「JR線や東武宇都宮線の駅付近にある市営駐輪場」「ジャパンカップサイクルロードレース」全てにおいて本庁(都心)が最も多かった。(図IV-6-6)

<図IV-6-6>性・年齢別/職業別/居住地域別（上位6項目）

